

平成21年2月

河合 剛 学位論文審査要旨

主 査 清 水 英 治
副主査 村 脇 義 和
同 小 川 敏 英

主論文

Creation of a tumor-mimic model using a muscle paste for radiofrequency ablation of the lung

(肺ラジオ波凝固療法のための筋肉ペーストを用いた腫瘍類似モデルの作成)

(著者：河合剛、神納敏夫、杉浦公彦、橋本政幸、大内泰文、足立憲、藤岡真治、井藤久雄、中村希代志、小川敏英)

平成21年 Cardiovascular and Interventional Radiology 掲載予定

審査結果の要旨

本研究は生体豚を用いて、肺ラジオ波凝固療法（RFA）の基礎実験において簡単、かつ確実に作成することができる腫瘍モデルを考案すると共に、本腫瘍モデルが肺RFA基礎実験に適しているか否かを検討したものである。その結果、本腫瘍モデルは透視下にて卵円形の結節として作成可能であり、RFA針は正確に腫瘍に穿刺することができた。また、臨床例に対するプロトコールを用いて焼灼可能であり、肉眼的および組織学的に熱凝固の所見が得られたことで、腫瘍モデルとしての使用が可能であることが判明した。本論文の内容は、今後の肺RFA基礎実験の分野で、様々な凝固方法に対して使用可能な基礎的モデルであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。